

この度初当選させて頂きました熊木貞一です。区民の負託にお応えするため全力で地元北区のために働いて参ります。宜しくお願い致します。

私は大きく3点について質問をします。

大きな柱の1点目は豊かな幸齢社会を目指してです。

北区が抱える最大の課題の一つは人口減少・少子高齢化です。長寿化により働き方や老後の過ごし方など、個人の人生設計や社会のシステムを「人生100年」モデルへとシフトする必要があります。

1点目に高齢者の就労支援について質問を致します。

超高齢社会への対応策を示した新たな「高齢社会対策大綱」が閣議で決まりました。新たな高齢社会大綱では、年齢に関係なく活躍できる「エイジレス社会」を目指すとしています。大綱でまず指摘しているのが「65歳以上を一律に高齢者と見るのは現実的なものではなくなりつつある」ということです。体力的な若返りもあり、高齢者だからといって支えられるだけの存在ではなく、支える側に回るができる人にはまわってもらう。そんな考えを明確に打ち出したといえます。65歳を超えても希望に応じて働き続けることができるよう環境を整備することが求められています。こうした対策を進める背景には、2つの理由があります。1つは若い世代の減少による深刻な人手不足です。そこを高齢者で補い、経済成長を図ろうという狙いです。働くことが健康の維持につながり、社会保障の支え手になることを期待できます。もう1つの理由は、働き続けたいと希望する多くの高齢者の存在です。内閣府が行った調査では、実に8割近くの人が65歳以降も働きたいと答え、働けるうちはいつまでもという人も4割を超えています。

一方、65歳以上の就業率を見てみますと、年々増えていますが60歳から64歳に比べると格段と低くなっています。働きたいと願っても現実はその簡単ではありません。

個人差はありますが、高齢になって医療や介護が必要になるのは概ね75歳頃といわれております。65歳から75歳までの10年間の働く場をどう確保するかが課題です。

いくつになっても働きたい、こうした願いを実現するため参考になる取り組みが岡山県総社市にあります。2016年に設置された「人生設計所」です。ここでは広域でフルタイムの仕事を中心に紹介するハローワークと異なり、自分が暮らす地域で例えば週3日だけ働きたいといった高齢者の細かいニーズに応えます。設計所が間に入ることで高齢者の採用に消極的だった企業も安心して

採用できるといった声も聞きます。設計所の職員は面接を通じて高齢者の得意なことを見つけ出し、その人にあった居場所を見つけるように心がけているといます。この取り組みから見えてきたのは、ちょっとした後押しがあれば経験豊富な高齢者の力を社会の中で生かせること。またそれが地域の活力にもつながっているということです。日本人の平均寿命はこの半世紀で男女とも10歳以上延びています。長生きのリスクに備えるため、そして生きがいのため高齢になっても働くことは欠かせない時代になっていると感じます。もちろん働くことを強制する雰囲気をつくるようなことがあってはなりません、希望する人が働き続けようとしても、65歳という壁があるのも現実です。この壁を乗り越えるため、誰もが働けるような仕組みづくりを急ぐ必要があります。

公益社団法人北区シルバー人材センターでは、仕事を会員として登録した高齢者に提供しています。しかし、センターが提供する業務内容がいわゆるホワイトカラー退職者の受け皿となり得ていないことが課題として指摘されています。そのことに対する区の見解をお聞かせください。

また、区ではシニア向けの再就職セミナーを行っています。ここに相談に来られる方の希望等の傾向についてお聞かせください。

花川区長の所信表明の中にも「人生100年時代を見据えた健康長寿社会の実現に向け、誰もがいきがいややりがいを持って暮らせる北区を目指し、高齢者の就労や社会参加につながるいきがいを創出する仕組みづくりを進める」とありました。具体的にはどのような対策を考えているのかお聞かせください。

2点目に高齢者の住宅支援について質問を致します。住まいは生活の基盤です。住まいがなければ福祉にも就労にもつながりません。品川区では65歳以上の一人暮らしの方または全員が65歳以上の世帯の方に民間賃貸住宅を斡旋しています。保証人が見つからず賃貸借契約が難しい方は家賃等債務保証制度が利用できます。孤独死や家賃滞納を懸念し、高齢者への賃貸に二の足を踏む大家の不安を和らげ、高齢者の入居を促す狙いがあります。北区では単身世帯の高齢者が増えており保証人を立てることが難しい方が多くいらっしゃいます。花川区長の所信表明の中にも「北区に暮らせば幸せになれる。そのようなふるさと北区の実現に向け、全力で取り組む」とありました。住み慣れた地域で暮らしたいと高齢者の思いを実現するためにも北区として公的保証人制度や高齢者の入居支援を確立すべきだと考えます。区の見解をお聞かせください。

3点目に高齢ドライバーの安全対策について質問を致します。本年4月、豊島区池袋で87歳男性が運転する乗用車が暴走し、2人が死亡、10人が負傷。6月には大阪市此花区で80歳男性が運転する乗用車が幼児を

含む男女4人をはねる事故が発生。

事故の原因の多くがアクセルとブレーキの踏み間違いによるものです。踏み間違いを防ぐために、停車時や一定の速度以下で走っている際に急に踏み込んでも、電気信号を制御して急発進を防ぐ装置があります。購入、設置には3万円から9万円ほどかかります。このような踏み間違い防止装置の購入費用を助成すべきと考えます。区としての見解をお聞かせください。

また、渋谷区では高齢者運転免許自主返納支援事業を通して65歳以上の方の自主返納を推進しています。北区においても高齢ドライバーが原因となる交通事故の増加傾向に歯止めをかけるため、運転免許の自主返納支援を進めるべきと考えます。区としての見解をお聞かせください。

4点目に歩道のバリアフリーについて質問を致します。

北区は起伏が多く、坂の多い地形の区であります。すべての坂に対してバリアフリーを行うことは不可能です。しかし、車椅子を使っている方や高齢者が坂を上ることは大変です。また、歩道に高低差があったり、あまりの歩道の狭さにすれ違うことすらも困難な状況になっていたり、高齢者、障がい者にとってまだまだ危険な箇所が多く存在しています。

高齢になると転倒は大きなけがのもとになります。頭部打撲や手足の骨折などの重傷事故を招き、死に至る場合もあります。区では、障害者差別解消法の施行等も踏まえ、新たに「北区バリアフリー基本構想」を策定し、人にやさしい福祉のまちづくりを推進していくとしています。高齢者や障がい者が安心して移動できるように北区として歩道の段差や坂道の解消にどこまで取り組んでいくのか見解をお聞かせください。

大きな柱の2点目は子育てしやすい環境づくりについてです。

1点目は待機児童解消について質問を致します。本年の10月より幼児教育の無償化がスタート致します。その上で大事なことは、安心して働ける子育て環境の整備です。共働き世帯の増加や女性の社会進出が進んだことなどから、女性の就業率が上がり保育ニーズが高まっています。核家族化によって祖父母が父母に代わって子育てをすることが難しくなっていることが理由としてあげられます。北区においても保育園の誘致に力を入れて頂いておりますが、今年4月時点で119名の待機児童が存在しています。特に滝野川地域に待機児童が集中しております。今月滝野川にキッズガーデン北区滝野川が開園し、明年4月には田端に仮称MIWA田端保育園が開園予定になっております。

これによってどこまでこの地域の待機児童が解消される見込みなのか、区の見解をお聞かせください。区内で定員に達していない保育園に遠い地域からでも

通わせるために通園バスを運行する等の取り組みをすべきと考えます。また、待機児童問題は学童クラブにおいても起きています。待機児童解消に向けて具体的にどのような対策を考えているのか、区の見解をお聞かせください。

2点目は通学路並びに保育園の園外活動の安全確保について質問を致します。保育園児らが園外での活動中、交通事故に巻き込まれるケースが相次いでいます。滋賀県大津市では5月8日車同士の衝突事故によって保育園児ら16人が死傷。5月15日は、千葉縣市原市の公園に車が突っ込み園児を守ろうとした保育士が負傷しました。交通ルールを守っても身を守りきれないのが今の現実であります。まずは区内全保育園での園外活動における交通安全対策マニュアルの再点検、移動コースの安全点検の実施を早急に求めたいと考えます。区の見解をお聞かせください。

5月28日の朝、川崎市登戸駅付近で通学中の小学生が刺され命を落とすという事件が起きました。これを受けて北区でも、通学路の安全点検の徹底と通学路の環境整備の取り組みが徹底されました。そこには、教職員や保護者が通学路を実際に歩いて、防犯の観点から定期的に点検を実施する。点検等により防犯上好ましくない状況を発見した際は、関係機関と連携し通学路の環境整備に努めるとあります。

車の暴走運転による事故も続発しております。危険箇所においては、ガードパイプ型の車両用防護柵やガードレールの設置など積極的に警察と連携をすすめていくべきであると考えます。区としての見解をお聞かせください。

児童の登下校時には交通指導員が配置されておりますが、現在配置されている人数で足りているのか、学校の規模に応じて適正な人数基準があるのか、この点についてお答えください。

3点目は受動喫煙防止について質問を致します。

受動喫煙によって目やのどの痛み、頭痛などの症状だけでなく肺がん、心筋梗塞や狭心症等の危険性が高まります。

また、たばこを吸わない妊婦でも低出生体重児の発生率が上昇することや子どもでは喘息、気管支炎といった呼吸器疾患等や乳児では乳幼児突然死症候群と関連があることが報告されています。

改正健康増進法の一部施行により、今年7月から全国の学校や病院、行政機関などで屋内の完全禁煙が始まり、屋外に喫煙所を設置する場合は一定の基準を満たす必要があります。東京都においては、より厳しく規制する都条例に基づき、9月から学校や幼稚園、保育所などで屋外喫煙所の設置を禁じ完全禁煙

となります。受動喫煙について区としての見解をお聞かせください。

その上で周辺に喫煙できる場所がないため、公園のベンチで喫煙している人がたくさん見受けられます。子育て世代のお母さんより公園での全面禁煙を求める要望を頂いております。

公園で遊んでいる子供たちやベビーカーに乗った乳幼児が煙を吸い込んでしまうので何とか対策を講じて欲しいとのことでした。

この際公園での全面禁煙を実施すべきであると考えます。区の見解をお聞かせください。

大きな柱の3点目は田端、西ヶ原地域の諸課題についてです。

1点目は、地元ゆかりの偉人を生かした街づくりについて質問を致します。新一万円札の肖像に起用されることが決まった渋沢栄一氏。氏が内外の賓客を招く公の場として、また明治34年から昭和6年に亡くなるまで30年余りを過ごしたのは飛鳥山です。この場所にはインドの詩人タゴール等多くの著名人が訪れています。今こそ渋沢栄一ゆかりの地として広くPRしていくべきであると考えます。現在、地元では渋沢資料館の協賛を得て飛鳥山周辺を舞台に渋沢栄一クイズラリーを行っております。しかし、「新一万円札の肖像に決まったのに思ったほど地元が盛り上がっていない」との声が聞かれます。西ヶ原を中心として「渋沢の街北区」となるような街づくりを推進すべきと考えます。区としての見解をお聞かせください。

また田端には、令和5年度に仮称芥川龍之介記念館が完成予定です。芥川龍之介は大正2年から亡くなる昭和2年まで田端に14年間住んでいました。地元の商店街には芥川の小説「河童」に因んだ「りゅうのすけ君」というキャラクターがおります。地元としてもこの記念館に大いに期待しております。記念館を建てるだけでなく、田端文士村記念館を含め、文学の街田端として街づくりを推進すべきと考えます。区としての見解をお聞かせください。

その上で田端駅の高台エレベーターについて質問を致します。田端の高台地域の住民が駅を利用するためには、階段か急坂を使わなければなりません。区内の駅周辺のバリアフリー化は進み、来年の3月には隣の駒込駅東口のエレベーターが完成予定です。これを受けて益々田端高台エレベーターの完成を皆さん待ち望んでいます。令和4年度完成予定と聞いておりますが、本年度は詳細設計を進めていくとあります。予定通り完成の見込みはあるのか、進捗状況をお聞かせ下さい。

最後に飛鳥中のリノベーション工事について質問を致します。

飛鳥中は来年9月より旧田端中に移転をし、工事が始まります。それに伴って通学バスが出ると聞いております。しかし、どの地域の生徒が利用できるのか

詳細が分からず保護者や地域の方から不安の声が聞かれます。通学バスの詳細は決まっているのか。現在の部活動はそのまま継続できるのか。地域住民への説明会はいつ行われるのか。この3点についてお答えください。

以上で私の個人質問を終わります。ご清聴ありがとうございました。

(再質問)

丁寧な答弁、誠にありがとうございました。今回は、北区において最大の課題である少子高齢者対策の中から、的を絞って質問をさせていただきました。

年齢を重ねても、健康寿命や活動寿命を延ばし、生き生きと幸せに暮らし活躍できる社会を構築することが重要であります。

高齢ドライバー対策、子どもの安全確保に関しては生命に係わる課題であります。何かあってからでは取返しがつきません。スピード感を持った対応を是非お願いしたい。

花川区長のスローガン「長生きするなら北区が一番、子育てするなら北区が一番」は区民の皆さんにしっかり浸透しております。

区民の皆さんが生活実感として「北区に住んで良かった」と心から言って頂けるような取り組みをお願い致します。

また、渋沢プロジェクトに関しても、江東区でも旧渋沢邸が青森から移築されたりと他の市区町村でも始まっております。こちらもスピード感を持って対応頂き、渋沢栄一といえば北区と全国に浸透するよう要望致しまして質問を終わらせて頂きます。

ありがとうございました。